

がんセンターたより

【病院長就任のごあいさつ】

病院長 金森 平和

みなさん、初めまして。

本年4月より、大川伸一前病院長の後任として病院長に就任いたしました。医師としての前半は横浜市立大学附属病院でお世話になり、平成18年から当院に勤務しています。日頃から多くの患者さんをご紹介いただき、この場をお借りして御礼を申し上げます。

さて、現時点での最大の関心事は新型コロナウイルス感染症になります。当院は患者受け入れ病院ではありませんが、市中感染症として細心の注意を払いながら、がん診療が滞ることのないように職員一同努めているところです。ウイルス陽性者の診療を直接担当されている病院の皆さんに敬意を表するとともに、当院で出来る医療連携に関して忌憚のないご意見やご要望をいただければ幸いに存じます。

当院はがん対策基本法に基づいて、全国どこでも「質の高いがん医療を提供する」ことを推進する「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。病院と臨床研究所が一体となり、手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法による集学的がん治療を基本として、適切ながん情報の提供、院内外のがん患者の相談支援、東洋医学を取り入れたQOLの向上、就労やアピランスに悩む患者への援助、院内および全国がん登録などを含めた包括的ながん診療を行っています。平成27年12月には国内で5番目となる重粒子線治療施設(i-ROCK)での診療が始まり、昨年度は480人が治療を受け、令和2年3月までの累計は1,133人となっています。また、令和元年9月には「がんゲノム医療拠点病院」の指定を受けています。エキスパートパネル(検査会社から戻ってきた解析結果に基づいて、がんゲノム医療の専門家、病理医、がん薬物療法専門医、主治医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラーが集まって、治療薬の可能性等について検討する場)

を毎週開催し、本年3月までに118人のがん遺伝子パネル検査の分析結果を還元しています。

現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、病院機能の見直しや新たな医療連携の構築が求められています。県民の期待に応えられるがん診療の一翼を担うことを使命と心得て、引き続き、尽力する所存です。今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



正面玄関に検温所を設営

【就任のごあいさつ】



副院長 岸田 健

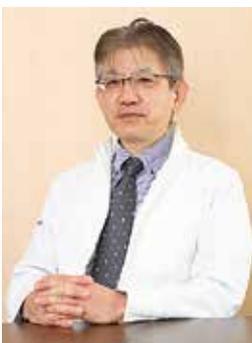
この4月より副院長を拝命しました岸田です。2008年6月泌尿器科医として当院赴任、この間病院は手術室事故、移転、理事長問題など大波に揉まれてきましたが、私自身はその影響をほぼ受けることなく臨床に専念し、自分も科も大きく成長できた12年間でありました。この度の就任に際し、前院長大川先生に心構えを伺いました。臨床が医師の本分である。しかしそれを遂行するためには誰かがやらなければならない縁の下の仕事がある。功績は人に与え、批判は自分が負う覚悟が求められる、と。危機を乗り越えてきた先生ならではの重みのある言葉でした。これを肝に銘じ、恩返しのため「新しい生活、新しい医療」を職員と共に築き上げる礎になれたらと思っております。「頑張る」というのが大好きな古い昭和の人間ですが、自分も含め働き方改革も考えなければいけません。その中で病院の使命を果たし患者さんも職員も満足できる環境作りに尽力する所存です。以後よろしくお願いいたします。



副院長兼看護局長 齊木 由紀子

4月1日付で副院長兼看護局長に着任いたしました齊木と申します。皆様どうぞよろしくお願いいたします。循環器呼吸器病センター、神奈川県立よこはま看護専門学校での勤務を経て、5年ぶりに戻ってまいりました。都道府県がん診療連携拠点病院として、神奈川県のがん医療の拠点としての役割を担う病院運営に貢献できるよう看護局の運営に邁進してまいります。日々変化する医療の現場で、看護師には多様性が求められています。患者さんご家族が安心して療養できる安全な環境づくり、生活者の視点を持ち関わることで、患者さんのニーズに応じた看護を提供することを大切にまいります。

また、安定した医療提供体制が継続できるよう、看護師の確保定着対策およびがん専門病院としての役割が発揮できる看護師の育成に取り組んでまいります。2020年度新たなメンバーで、協力と対話を重視し、多職種との連携をより強化し、患者さんご家族に信頼される看護局の運営に努めてまいります。



医療技術部長 森永 聡一郎

この4月より医療技術部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。申し上げます。

医療技術部は、放射線診断技術科、放射線治療技術科、検査科、臨床工学科、物理工学科、リハビリテーション科、栄養管理科、薬剤科から構成され、専門分野は多岐にわたっています。医師、看護師を除く医療技術職のスタッフすべてが医療技術部に所属しており、138名の大所帯です。

これからの質の高い医療は、医師、看護師、そして私共医療技術部スタッフの提供するサービスが三位一体となって初めて提供できるものと考えています。多くの医療施設があるなかで、神奈川県立がんセンターを選んでくださった患者さんのご期待に応えるために、スタッフはそれぞれの専門分野でより良い医療をお届けしようと日々研鑽、努力しているところです。

親切で、安全、安心な医療を心がけて参りますので今後とも医療技術部をよろしくお願いいたします。申し上げます。



副看護局長 安江 佳子

4月に副看護局長に着任いたしました安江佳子です。どうぞ、よろしくお願いいたします。民間病院、循環器呼吸器病センター、こども医療センターを経て、三十数年ぶりにがんセンターへ参りました。がんセンターが私の看護の原点です。初心に還り、身の引き締まる思いであります。

昨今の目まぐるしく変化する社会情勢に、看護も課題山積ではありますが、ヘルシーワーク・プレイス、ダイバーシティなどを踏まえ、看護局のミッション「患者さんに寄り添い、その人らしさを大切にされた最良の看護を提供する」を目指して、人材育成や良質な医療の提供に微力ながら尽力したいと考えております。



副看護局長 茂木 光代

この度、業務担当の副看護局長に着任いたしました^{もてき}茂木光代です。

2年間派遣として神奈川県庁に勤務し、戻ってまいりました。県で勤務する中で、県や県議会の当院に対する期待を強く感じ、都道府県がん診療連携拠点病院であることの重みを再確認しました。

医療やそれを取り巻く環境が急速に変化していく中で、病院の経営と医療・看護の質を保ちながら、これまでと同じ看護のやり方を継続していくことは難しい部分があると感じています。働き方改革が求められることから、業務の効率化を図りつつ、看護が担う役割を考え、職員のやりがいを大切にしながら、ビジョンにある「患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りをもてる病院」であるように、自分にできることを努力していきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

※看護局のキャラクターの「かなちゃん」の作者です。



副看護局長 古矢 尚子

4月より、副看護局長兼患者支援センター長を拝命いたしました、古矢尚子と申します。患者支援センターは、がんに関するよろず相談を担当するがん相談支援室、院内のベッドコントロールおよび入院・退院支援(療養調整)を担う入退院支援室、ソーシャルワーカーによる医療福祉相談室という3つの部門で運営しております。療養調整では、日頃より大変お世話になっております地域の医療機関のみなさまへ、この場をお借りして厚くお

礼申し上げます。当院のミッションであります、神奈川県のがん医療の中核機関として、県内の医療機関と連携を図り、たくさんの県民の方々に最良のがん医療が提供できるよう精進して参りたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【新任の紹介】

医療局 (医師)



呼吸器内科
部長
齋藤 春洋



血液・腫瘍内科(血液)
部長
田中 正嗣



消化器内科(消化管)
部長
町田 望



消化器内科(肝胆膵)
部長
上野 誠



頭頸部外科
部長
古川 まどか



呼吸器外科
医長
足立 広幸



血液・腫瘍内科(血液)
医長
宮崎 拓也



消化器内科(消化管)
医長
古田 光寛



消化器外科(胃食道)
医長
高橋 恒輔



消化器外科(大腸)
医長
三箇山 洋



頭頸部外科
医長
橋本 香里



泌尿器科
医長
小泉 充之



麻酔科
医長
越後 結香



血液・腫瘍内科(血液)
医師
泉 陽彦



血液・腫瘍内科(腫瘍)
医師
貫井 淳



消化器内科(肝胆膵)
医師
大石 梨津子



消化器外科(大腸)
医師
井口 健太



脳神経外科
医師
大島 聡人



頭頸部外科
医師
川野 雅子



乳腺内分泌外科
医師
安川 美緒



乳腺内分泌外科
医師
松井 愛唯



婦人科
医師
若林 玲南



泌尿器科
医師
野口 毅朗

医療技術部



放射線治療技術科
科長
大澤 幸夫

看護局



看護科長
當房 紀子



看護科長
シュワルツ 史子



看護科長
由井 志穂



看護科長
市橋 麻由美

レジデント(第34期生)



医師
村山 大輔



医師
額田 卓



医師
紺野 直紀



医師
三浦 隼



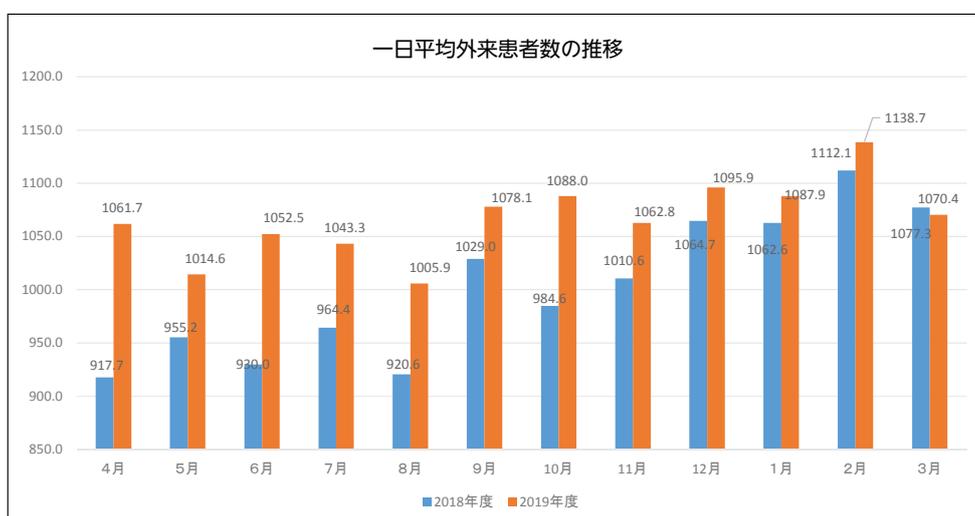
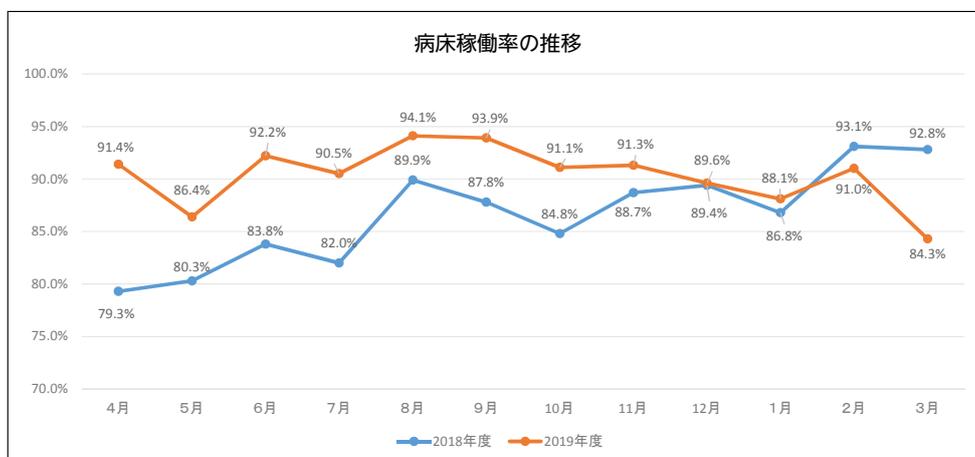
医師
祐森 明日菜



歯科医師
高瀬 さやか

1年間の病床稼働率及び平均来院数

医事・診療情報管理課



がんゲノム診療について

がんゲノム診療科 廣島 幸彦

当院ではがんゲノム医療拠点病院として、質の高いがんゲノム医療提供体制の構築のため、「がんゲノム診療センター」を開設し、新たに採取されたがん組織、あるいは過去に手術などで採取したがん組織を用いて、がん遺伝子パネル検査を施行し、「がんゲノム診断・治療検討室(エキスパートパネル)」で検討することにより、標準治療がない、若しくは既に終えた患者さんに対して、有望な治療薬の情報提供と治療薬提供までのルートをご案内します。

「がん遺伝子パネル検査」では、対象となる条件に適合した患者さんに対して、1回の検査でがんに関連する100個以上の遺伝子の変異を調べ、治療効果が期待できる治療薬や臨床試験の情報を得ることができます。ただし、今までの研究データでは、本検査の結果に基づいた新たな治療を受けた患者さんは10%程度と考えられます。有効な情報が得られない可能性も十分にあることをご理解ください。また、検査を受けた方の3～5%程度で遺伝性腫瘍(生まれつきがんに罹りやすい体質)に関わる可能性がある遺伝子変異が見つかることがあります。その場合、血縁者(親、子、兄弟など)も同じ変異を持つ可能性があります。



対象となる方

1. 下記いずれかの診断を受けた方

- ・標準治療で効果がなく、次の治療をさがしている固形がんの方。
- ・原発不明がん(がんの発生臓器がはっきりせず、転移巣だけが大きくなったがん)の方。
- ・標準的な治療法が確立されていない希少がん(患者数が少なく稀ながん)の方。

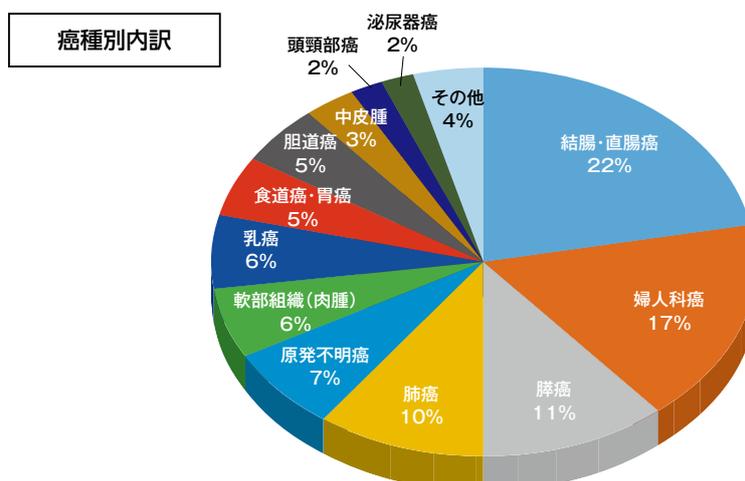
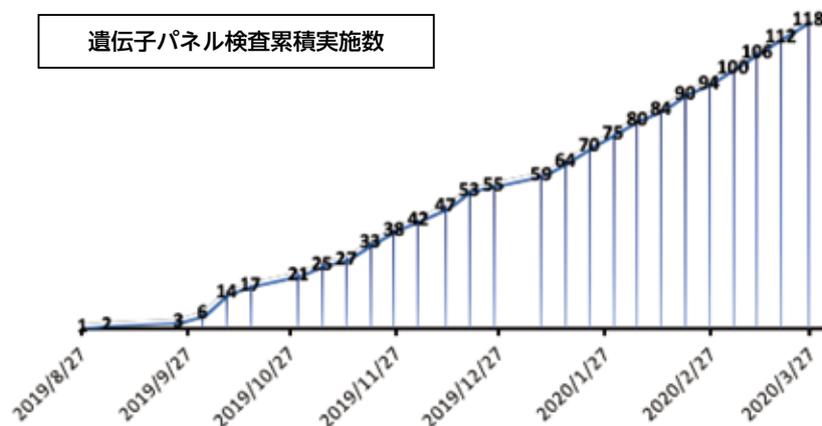
2. 全身状態、臓器の機能などから、本検査実施後に検査結果をもとに化学療法が実施できると主治医が判断した方。

診療実績

当院では、2019年8月から遺伝子パネル検査を実施しております。

2019年9月にはがんゲノム拠点病院に指定され、12月から自施設内でエキスパートパネルを開催し、解析結果レポートを作成しています。

下図は、2019年8月～2020年3月末までに当院で実施された検査数と内訳を示しています。



検査費用について

どちらのがん遺伝子パネル検査も医療保険が適用されるため、検査費用については保険点数56,000点分(3割負担で168,000円)をお支払い頂くことになります。「高額療養費制度」が使えるので、収入に応じて決められた自己負担分以外は払い戻しを受けることができます。

検査発注時に保険点数8,000点分(3割負担で24,000円)をお支払い頂き、検査結果説明後に保険点数48,000点分(3割負担で144,000円)をお支払い頂きます。

※上記費用は検査のみの費用です。ほかに診察料(初診、再診)がかかります。

※検査結果で有効な治療情報が得られなかった場合でも、上記検査費用はお支払い頂きます。

※遺伝性腫瘍が見つかった際の遺伝カウンセリングも保険で受診できるようになりました。

お問い合わせ先

神奈川県立がんセンターホームページ <http://kcch.kanagawa-pho.jp/genome-c/index.html>

がんゲノム診療相談センター(がん相談支援センター)

月曜日～金曜日 9:00～16:00(祝日を除く)

電話番号 045-520-2211

重粒子線治療について

重粒子治療センター長 鎌田 正

2015年12月に神奈川県立がんセンターで重粒子線治療が開始されて今年で5年が経過します。この間に骨や筋肉にできるがん(肉腫)、頭頸部にできるがんの一部、前立腺がんに対する重粒子線治療の保険収載が実現し、昨年には年間約500件の重粒子線治療を実施することができました。これら以外のがんに対しても、先進医療として重粒子線治療が行われており、肺がん、肝臓がん、食道がん、膵臓がん、大腸がん(手術後の再発)、腎臓がん、子宮がんなどが対象となっています。また肺、肝臓、リンパ節への転移がんも条件を満たせば先進医療として重粒子線治療を行うことが可能となっています。重粒子線治療に対するご質問、ご相談を希望される場合には重粒子線治療電話相談窓口(患者支援センター内)：TEL：045-520-2225(平日9時～16時)にお気軽にご連絡ください。



お知らせ

当センターでは、毎週木曜日、2階ラウンジにて病院ボランティア会「ランパス」の方などによるミニコンサートを開催していますが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当面の間は中止いたします。

開催する予定となりましたら、随時ホームページにてお知らせいたします。



編集後記

本来の4月であれば、桜花爛漫の・・・と挨拶したいところでしたが、昨年度末からのコロナ禍で、がん患者さんも多大な影響を受けています。「手術や抗がん剤治療を予定通りに受けても大丈夫だろうか?」「放射線治療の影響はないでしょうか?」「病院受診そのものがリスクでは?」等々、様々な不安の中で治療を継続されている姿に勇気をもらい、私たち職員も「正しく恐れながら」診療を続けています。しばらくはwith corona, post coronaが続く覚悟のもと、今まで以上に県民から信頼され選ばれる病院を目指したいと思います。(病院長 金森 平和)

編集・発行： 神奈川県立がんセンター 総務企画課
〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2
TEL 045-520-2222 (代表)
H P <http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

